

# SADA

SAKAI DESIGN ASSOCIATION

堺デザイン協会

No. 5

昭和61年9月30日



## 日本展示学会・第5回研究大会<sup>堺</sup>

岡村 篤

去る5月17日(土)~19日(月)の3日間開催された日本展示学会第5回研究大会<sup>堺</sup>は、全国各地から各界の有力者を集め、海に開けた文化都市堺を舞台に、熱心な研究発表や臨地研修が行われ、此処堺に久々の文化の新風を吹き込んで閉会した。

### ■岩井宏實教授メッセージ



岩井宏實 教授

日本展示学会は、昭和57年5月23日、国立民族学博物館で設立総会をもち発足いたしました。会長には梅棹忠夫国立民族学博物館長を擁し、博物館・美術館の学芸員・研究員はもとより、人文科学・自然科学各分野の研究者・建築家・デザイナー・展示設計専門家、その他あらゆる分野から、展示に関心をもつもの、展示

に從事するもの、展示学を志向するものを会員として、学会発足以来活動を進めてきました。

展示学は、たんに主題に即した資料を一定の場所に展示するというのではなく、さまざまな形態の情報伝達、生活空間の構成すべてが展示であるという観点に立っています。毎年の研究大会のテーマは、そうした展示学の方角を示しているものといえます。「展示学の課題と方法」(第1回)、「いまなぜ展示学カーショウウィンドーから町造りまで」(第2回)、「認識の伝達」(第3回)、「博物館と博覧会」(第4回)を経て、第5回大会テーマは「伝統と創造-都市の展示学」とすることになりました。

そこで第5回大会は、中世以来の伝統的な都市であり、また新しい都市の創造をめざして活動を展開しておられる堺市が、大会開催地としてもっともふさわしいところであると考え、日本展示学会第5回研究大会開催地を堺市、堺市教育委員会をお願いしたところ、心よくお引き受けいた



だきました。そして、昭和61年5月17・18の両日、堺市、堺市教育委員会後援のもと、堺市立勤労会館・堺市博物館を会場として開催され、成功裡に終了いたしました。

本大会の運営については、大会実行委員はもとより、堺市博物館、堺商工会議所、堺文化観光協会、堺デザイン協会に並々ならぬ協力をいただき感謝いたしております。ことに堺デザイン協会においては、ポスター、プログラムのデザイン作成、大会会場のデザイン、構成等の実務面において、主体的な役割を果たしていただき、厚くお礼申し上げます。大会参加学会員個々においても、大会運営関係者のご高配にたいへん感謝していますことを申し添え、重ねてお礼申し上げます。(日本展示学会理事(大会担当)、国立歴史民俗博物館教授)



## ■SADAの参加

日本展示学の目指す新しい方向への「展示」の意味は、今までになかったスケールの大きさと、今まで出来なかった異分野の学問的つながりを模索している。堺デザイン協会へ地元関係団体として、学会堺大会実行委員会から協力依頼が寄せられた。理事会に計られたが、当協会としてもデザインと言う一つの言葉の枠の内に、分野を越えた共通点を見出そうとしている点、展示、建築、デザインなど学会が擁する各界のメンバー分野が重なる点で、全面協力しようという事になった。

理事長川崎浩が大会顧問として、事務局岡村菊（展示学会会員）が実行委員として加った。SADA会員に対し参加の呼びかけを行い、事業活動の一環として参加費の半額を補助する形で会員参加券を発行した。SADA発会以来初めての全国規模の催し参加である。堺、大阪周辺のデザイン関係団体、専門学校にも参加の呼びかけをした。



大会の具体的なお手伝いとして、ポスター、プログラム等のデザイン制作をした。海に開かれた文化都市堺へ、同じ立地や歴史をもつ神戸、倉敷、京都などからもパネラーが参加する。展示学会の基本色Greenは仁徳陵や内陸部を現し、海の色Blueと対比させた海側から見た堺を、日本最古の木製灯台が光のSignalを発し、全国から堺へ向けて離合集散するイメージをデザインしたものである。また、

大会会場のデザイン、構成を行った。会場へのアプローチサイン、タイトルサインなど各種サイン類の企画、会場全体は研究発表者の要望などを含めて、展示学の展示にふさわしいレベルで構成された。

当日会場では接遇、受付、記録など多数のSADA会員がお手伝いをした。シンポジウムでは、改めて現在の堺が置かれている立場にスポットが当たり、まだ構想段階にある話まで話題に上るなど活発な討論が行われた。文化不在の堺からようやく昔の息吹が感じられそうな気配となってきた。SADAの出番も近いのでは……。

- 5月17日(土)第1日午後6時からの懇親会では各地から来られた斯界の第一人者と盃を重ねながら懇談が行われ、大へん有意義なひとときを過ごした。
- 5月18日(日)第2日では、会員による研究発表、会員総会、堺市博物館へ会場を移して、特別研究発表、博物館見学が行われた。
- 5月19日(月)第3日、臨地研修には熱心な会員諸氏が参加し、大会実行委員井上博物館長の案内で市内史跡を見学臨地で研修を行った。3日目ともなるとお互いうち溶けた雰囲気の中で話はずみ、解散時には手を振って再会を約束した。

第6回大会は大和の国から瀬戸内海を下り、ヒミコの国九州で行われることが報告されている。



## 国際交通博、バンクーバー

「バンクーバー国際交通博覧会」を見て 森 達男

今回、国際デザイン交流協会、大阪デザインセンターが企画したツアー「バンクーバー国際交通博と、アメリカデザイン交流旅行」に参加してきました。

サンフランシスコ、ロサンゼルスでの各デザイン事務所及びデザイン学校訪問、バンクーバー国際交通博とニューヨーク、ボストンの各都市を見て来ました。1都市2～3日間のスケジュールで歩きましたし、皆様もすでに見られる都市も多いと思いますので、今回はバンクーバー国際交通博を主として報告したいと思います。

バンクーバーは、日本から7,500km、地球の円周 $\frac{1}{4}$ の距離、北アメリカ大陸の太平洋岸、バンクーバー島の東側に位置し、ブリティッシュコロンビア州の首都で、カナダ太平洋側の表玄関に当る。国際交通博はバンクーバー市制100年、大陸横断鉄道到着100周年を記念して開催された。

周囲の豊かな資源、資材の集積港であり、大都会と大自然がまさしく隣り合せにあり、変化に富み、旅人から見ればまさに天国だ。美しいダウンタウン、世界有数の新しい高級住宅街、懐の深い港、近在の島影や山並みの美しさ、風光明媚な素晴らしい都市である。

会場は、入江の海岸線に沿って、細長くレイアウトされたメイン会場と、少し離れた所にカナダ館〔カナダ連邦政府と共同開発されたビジネスビル、バンパシフィック・バ

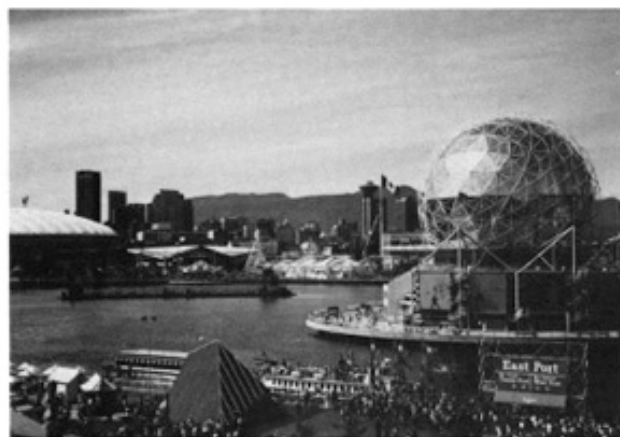


ンクーバーホテル、(東急ホテルズ・インターナショナル経営) クルーズシップターミナルに隣接)があり、両会場はスカイトレーンで結ばれている。その天国(会場)は入江の対岸に大きく広がる風景と、低水温のためか磯臭くないさらっとした海が、旅人の集中された感性の疲れを心からいやしてくれる。湾内の船からの眺めは、周囲の風景に浮かぶ天国の素晴らしさを鮮明に見せてくれ、美しい風景のルツボの中に綺麗におさまっている。

会場の隣りには大ホールがあり、これはスポーツスタジアムで、多分、冬のスポーツのためにあるものであろう。日本であればさしずめ会場施設として利用されただろうが、そうでないところが豊かな国たるゆえんである。日本万博での会場周辺の飯場風旅館群や夜店風みやげ店が、バンクーバーでは無いのが素晴らしい。

会場への交通機関には、市中心部よりスカイトレーン、バス、タクシーなどがあるが、ホテルからカナダ館まで徒歩で15分、カナダ館からメイン会場までスカイトレーンで5分足らず、カナダ館に入場すればそこはもう会場で、交通博にふさわしく場内アクセスはスカイトレーン、モノレール、ロープウェイ、湾内連絡船が用意され、全部無料であった。

モノレールは早く快適に、ロープウェイは高くのぼり会場のレイアウトを俯瞰させ、船は遠くから会場をながめさせ、会場のひとつひとつを新鮮に見せる配慮がなされていたように思った。会場は建物の色が6色でゾーニングされ



ており大変わかりやすくなっていて、色はパープル、レッド、ブルー、ピンク、グリーン、イエローで、建物の色を見れば、地図なしで自分の位置がわかる色彩天国。船の上から、モノレールの上から色彩の移り変りを見ながら次の地点に到着すると、まったく違った色の国に這入り別の天国に入国する。レッドの天国からグリーンの天国へ、次はイエローの天国へと旅人はさまよっていた。

交通は、エレクトロニクス、コンピューター等に比べて、先端性が薄い感じがするが、各国のパビリオンは交通と人間のあらゆる関係を判り易く、これからのライフスタイルや、宇宙までの未来像を表現していた。特別ステージでは世界の芸術家、音楽家、学者が集まり演奏したり踊ったりで、アトラクションも数多く準備され万博の雰囲気がいやが上にも盛りあげていた。各パビリオンへの入場待ちの人達には、ピエロ、手品師、辻音楽師達が私達のそばまで来て行列の退屈さをやわらげてくれた。

会場全体の展示は、色彩が素晴らしいので、色彩のビートに乗って天国を徘徊しているようだったし、世界各国からの入場者のコスチューム、皮膚、髪の色がいきいきと柔らかくとけ合っていた。色彩に限れば日本館の内容はあまり優れたものではなかった。外観は、広重の東海道五十三次や北斎の富嶽三十六景で構成されていたが、デザイン的にもまとまっていない感じがした。内部は中央に現在の日本の交通状況を、一望できるように巨大交通模型を展示し、かなりの車、電車が都市の中を走っていた。外部のジャパ



ンプラザでは、リニアモーターカーの450m試乗があり、かなりの人気を呼んでいた。

私の専門は工業デザインなので正確には会場構成、展示効果は判らないが、とにかく楽しく興味一杯の素晴らしい天国であった。交通をキーワードとした曼陀羅模様天国である。交通整理のお巡りさんのコスチュームですら、シャッターを切りたくなる。会場内のあちこちにあるファーストフードの店がすべて乗り物のかたちをしており、乗合馬車のポップコーン屋、SFの乗り物のアイスクリーム屋、ロケットのナチョ屋（お好み焼屋のようなもの）、スペースシャトルのホットドック屋等があり全部取上げたらきりが無いが、歩いているだけで楽しい会場であった。天国滞在期間は3日だったが、キョロキョロ徘徊してただけかもしれない。交通を社会文化発達のキーワードとする天国は夢のうちに終わったのであった。

とにかくあわただしく歩き、写真を撮り、立喰いをして帰って来た。再びいつの日にも風光明媚な自然と都市の上に築かれたこのような華やかな色彩の天国に行けるだろうか。はたして私は天国に行ってきたのだろうか、後は時間が天国を理性で把握するだけである。

追記、ミノルタカメラの遊戯場写真コンテストがありました。入賞をねらってシャッターを切って来ましたが、天国のいたずらか何も写っていませんでした。

金子副理事長も今回のツアーに副団長として参加され、楽しい旅をご一緒して来ました。



## 堺デザイン協会第3回総会

日時 昭和61年6月20日(金)

場所 堺商工会議所内レストランローズルーム

開会 午後6時40分

●森総務部会長より出席状況報告

会員45名中出席16名委任状提出者14名で過半数に達しており、総会開催が成立したことを確認

議長挨拶 川崎理事長

●書記に尾崎悦子、辻哲男両名を指名

●議事録署名人に上野富美子、木下勝義両名を指名

——拍手により承認

議事

第1号議案、昭和60年度事業報告及び収支決算報告

●上野理事より事業報告

●森理事より収支決算報告

●垣村監事より会計監査報告

●質疑 理事会の開催回数について(上野富美子)

回答 3回

意見 積極的に開き活発な活動を推進してほしい

(上野富美子)

——拍手により承認

第2号議案 昭和61年度事業計画(案)及び収支予算(案)

●上野理事より事業計画(案)の説明提案

●森理事より収支予算(案)の説明提案

●質疑 退会した賛助会員について(古本和宏)

回答 ダイキン工業㈱、㈱馬場刃物製作所の2社が退会

——拍手により承認

その他

●金子副理事長によりSADAニュースについて報告

5号編集について会員諸氏に原稿を依頼したい。

質疑・意見

●会員1人が1人を勧誘してはどうか(上野富美子)

事業活動を活発にし会員増を考えている(川崎理事長)

●会員の意見を汲上げる場を作る(岡村篤)

●協会活動についてアンケート調査を要請(森達男)

積極的に事業委員会へ提案及び意見を出してほしい。  
委員会で検討し全会員に流すと同時に取上げたい。

(上野理事)

●事務局報告(岡村篤)

展示学会についての報告と、展示学会会員としてSADA-Aの協力にお礼の挨拶。賛助会員堺刃物商工業協同組合理事長が福井清忠氏より滝川重次氏に交替の紹介があり、新理事長滝川氏より挨拶があった。

●閉会 午後7時30分

総会終了後懇親会に移り、なごやかな雰囲気の中で相互に意見が交換され有意義な一夜であった。

## 事業計画

1 研修事業

- ① セミナーの開催 1回
- ② 見学会 2回

2 広報事業

- ① SADAニュースの刊行 2回  
発刊予定：No 5、61.9末、62.3末

3 普及・啓発事業

- ① デザイン審査、選定活動

4 その他の事業

- ① デザイン関係団体との連携、協力
- ② 懇親会

## アンケート調査報告

第3回総会の際、今後の協会活動についてアンケートの実施要望があり、早速7月度に実施しました。その結果が出ましたので報告します。

アンケート調査数 60通、回答数31通、無回答数29通

●堺名所巡り 賛成 9通

- 喫食歩き 賛成 12通
- 会員作品展 賛成 7通
- ワンダースクール 賛成 10通
- 写真コンテスト 賛成 7通

## 事業報告 地下鉄見学会

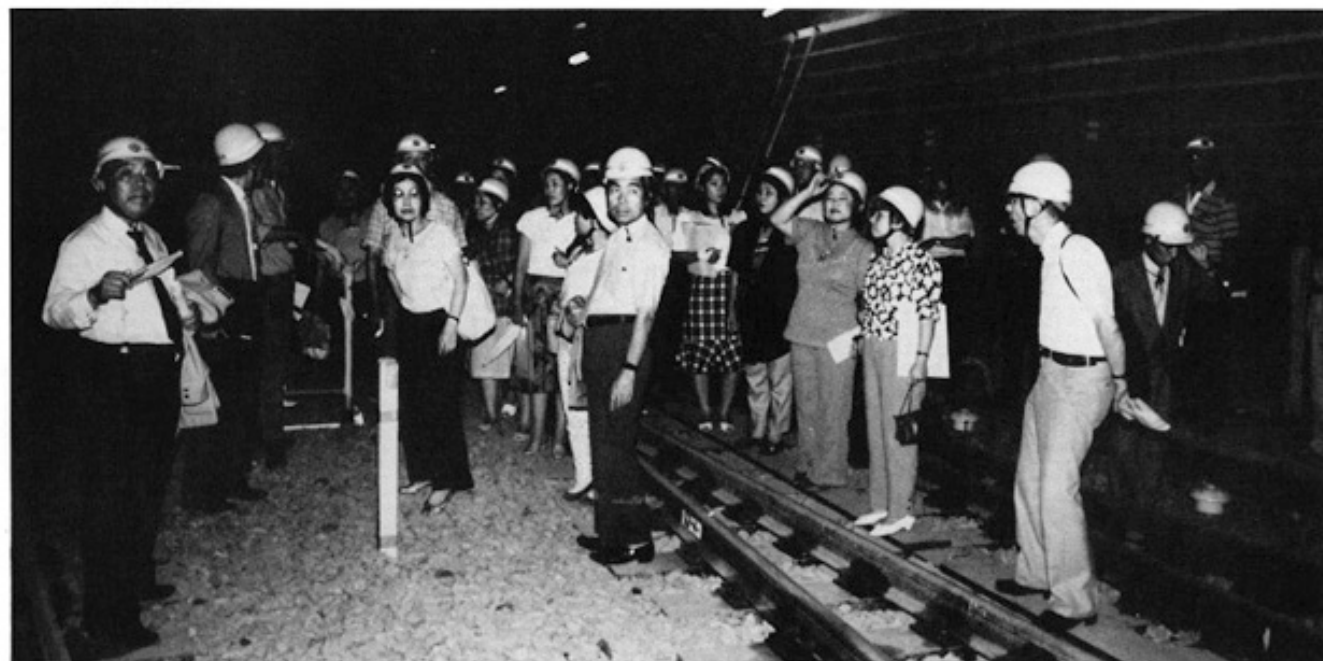
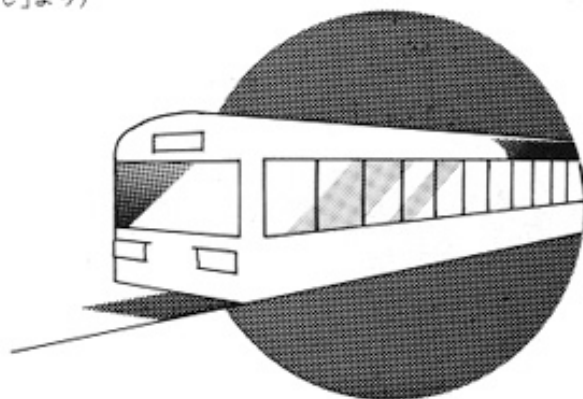
7月26日(土) 13時30分

南海高野線中百舌鳥駅に、SADA会員、賛助会員、一般参加者、堺商工会議所婦人経営者会員、計40名が集合。堺市都市局都市開発部津田様のご案内で、中百舌鳥駅北西部の約10万㎡の用地の一角にある現場事務所内会議室に行きました。

大阪市交通局高速鉄道第一建設事務所主査、京谷様から地下鉄一号線（御堂筋線）延伸工事概要について、説明いただきました。「輸送力増強にあたって拡張が困難な現在、我孫子車庫に代る新車庫を中百舌鳥駅に新設、また地上部分は鉄道施設用地の経済的、効率的利用の観点からも、将来

の都市計画上の観点からも用地の高度利用を計るよう考えている」とのお話がありました。そして見学者からのいろいろな質問に対して、わかりやすくお答えになり、その後、工事現場をご案内いただきました。

また同敷地内に建設されている、産業振興センターは、大阪の副都心として、昭和62年春、地下鉄一号線の中百舌鳥駅までの開通にともない、南大阪地域の主要交通結節点として将来、文化、情報、商業機能の飛躍的上昇が予測される地域であります。（「産業振興センター建設計画のあらまし」より）



---

## 企業が創る

---

カセットライフを楽しくする「スペースカセット」

ナカバヤシ株式会社

当社製品の「スペースカセット」が、3月6日から11日まで、パンジョ広場で開催された“堺の新製品フェア’86”において、優秀製品賞に選ばれる栄に浴しました。ここで少し当製品についての概略を説明させていただきます。

すでにカセットテープの普及にはめざましいものがあり、それにつれ収納ケースの需要も増えています。いろいろな



商品が市場には出回っていますが、「スペースカセット」の特徴をあげますと、

- タテ、ヨコが同じ長さである。
- 上下、左右、自由に組み立てられる。
- 壁面に取り付けられる。
- ワンプッシュで飛び出し、収納が出来る。
- 色の組合せでカラフルになる。
- 手軽に何処へでも持ち運べる。
- ジャンル別に収納

などで、カセットライフがより楽しく広がります。

堺本社工場で生産しており、日産2000個ペースです。販売先はカメラ、文具、ファンシー、家電、バラエティショップ、レコード店など幅広く取り扱われています。またギフト商品、販促商品としても人気があり、ゴルフの景品などにも利用されています。

---

## ズームアップ

---

マンホールの蓋（フタ）

木下勝義

子供を幼稚園に送って行く時、少し時間が早くぶらぶらと散歩のつもりで歩いていると

「これなにか家の前のマンホールのフタと違うね」といわれて、見てみるとこんなのがありました。

原稿を出すことになって何にしようかと困っていた時だけに、そうだ、これをSADAのズームアップの写真にしようと、持っていたパカチオンカメラで写したのがこの写真です。マンホールのフタも堺市内に何種類あるのか気になって見て歩くと、“工”の字のもの、“○”のもの等がありました。でも最近コンクリートのフタもあります。味けないですね。

車社会となった今日この頃は、道端の小さなものを見落

しているのですね。車では普段何となく通り過ぎる道にも、歩いて見るとこんなものがあったのかと改めて思うのです。





## 堺・今・昔

## 堺更紗の復元

老 健一

博物館敷地内の堺市茶室、伸庵で堺更紗の復元袱紗をみる機会があった。室町時代末期、南蛮船によって輸入されたインド、ペルシャ（イラン）を原産地とした更紗は、強いコントラストをもって当時の人の目を驚かせたが、堺に



上陸した更紗は次第に雅びなものになり、和更紗、あるいは堺更紗として有名になり、茶人に珍重されるようになったが、時の流れとともにこの名品の姿が消えていたところ、SADA賛助会員、福助株式会社の技術者によって復元され、写真のような人形手を手捺染によって染め上げたもので、布地は和泉、河内でできた軽ろやかで、燃りがあまく織込の浅い当時の白木棉の風合いを再現しており、そのためインドに手紡ぎ用の糸を依頼して取りよせ、手織りしたものであるという。(復元堺更紗解説文より引用)

手にとれば、いかにも柔らかく、ほんやりとした味わいがあり、茶袱紗としての使い途の他に額装して壁面を飾り洗練された堺更紗の作風を眼で楽しむのも一つのアイデアであろうと思った。21世紀を目前に控え新人類といわれる人達の時代になりつつあるが、すぐれた先人の偉業で復元したいものが、まだまだあるのではなかろうか。

## E-スポット

## 珈琲専門店MUCNo.80号（南花田店）

古本和宏

キダ・タロー著「コーヒーの店—大阪—」にも紹介された、珈琲舗MUCクイーンや珈琲専門店MUCの姉妹店で、昭和59年3月堺市南花田町81-1の大和高田線脇にOPENした。他のチェーン店同様に好評で、前面道路が大泉緑地側へ開通すれば、車の便もよくなるであろうと、より一層の賑いを期待しているそうです。コーヒーと軽食のトーストが自慢で、アルコールの無いのが残念の評もあるそうですが、珈琲の専門店であるだけに……。



## デザイン随想

垣村三平

堺市の主催する「堺ゆかた祭りのコンテスト」は第10回を数え、当協会から小田・岡村審査員がその掌にあたった。

堺のゆかたは、江戸後期に起源するといわれ、大和川、石津川沿いに栄えたが、江戸末期から明治にかけて、型紙の改良や合成染料の輸入により、現在はほとんど注染となり、繊細な図柄、鮮明な発色が特徴である。大阪府でも昨年度に「大阪の伝統工芸品」指定制度を創立し、堺ゆかたを指定して地場産業の繁栄と発展をはかってきた。

そこで、このゆかたについて別の角度から述べてみる。浴衣は浴びる衣と書いてゆかたと読む。古来の高貴の方は風呂に入るのに浴槽に入らず、木綿の単衣を着て、竹の簀子の上で頭から湯水を浴びたということから、浴びる衣がゆかたになったといわれている。また、ゆかただけを着たくつろいだ姿は、年輩になった者には記憶に残っているものの、生活慣習が変わってきたこのごろでは余り見かけない。



毎日暑い日が続いて水銀柱が30度を超したとなると、涼を取るのに打ち水をし、行水をしたあとゆかたに着がえる風習も少なくなったことも事実であろう。これらのゆかたは白地に紺の色を最上とし、洗えば洗うほどに冴えてくる藍染め紺は、まさに夏の色といえる。ところが時代の推移とゆかたの使い方が変わるにつれ、ますます多色化の傾向があり、あの涼しそうな感情をひきおこす白と紺の配色は、いつまでも見守っていききたいと思っている。

## 花をデザインする

尾崎悦子

音楽家が曲を奏でるように、ファッションデザイナーがドレスを作るように、フラワーデザイナーは花をデザインします。フラワーデザインの仕事は最近急速に広がってきました。パーティーのテーブル、式典会場の花、結婚式のブライダルブーケ、服飾用としてのコサージュ類。更に、ウインドーディスプレイなどの商業デザインや、化粧品、ファッションの広告等、幅広く生かされています。



フラワーデザイナーとしての活動分野は広く、個々の内容も何に力を入れているかでずいぶんちがった活動方法があるようです。私の場合は堺で12年間デザイナー養成を目的としてスクール経営を行なってきました。ほとんどの人は趣味としてフラワーデザインを日常生活の中に取り入れて楽しめればということで習いはじめますが、技術が身についてくるに従ってプロ意識も強まり、最近では結婚式場のテーブル花、ギフト用としての花、喫茶店の生け込み、ホテルでのブライダルブーケ等、個々の活動が活発化してきたようです。また、フローリスト経営者も、顧客のニーズに応じた花づくりをするため、デザイン技術の習得にくる人が増えてきました。これからは、他のデザイン分野との結びつきをもっと深め、より一層幅広いものにして行きたいと思っています。

## あるプロジェクトに参加して

田中賢次

エルメス、セリーヌ、サンローラン、モンタナ、クリッ  
ツァ、アルマーニ等の世界の一流ブティックと、レストラ  
ン、エステティックサロンからなるヒルトンプラザは、ヒ  
ルトンホテルを核とする複合的商業施設として、9月10日  
大阪駅前にオープンしました。

小さなビルならスッポリと入ってしまいそうな、巨大な  
アトリウム（吹抜空間）をはさんで、ホテル棟（地上34  
階、地下4階、客室数512）と、店舗棟（地上9階、地下4

階、店舗数95）からなり、大阪の一等地に堂々たる威容を  
誇っています。

一昨年の暮れから、このプロジェクトに参加し、プラザ  
基本デザインコンセプトを作成、パブリックスペース等の  
デザインをかため、店舗設計監理室が開設されてから、テ  
ナント設計による店舗のデザイン調整、図面のチェック、  
打合せ、及びテナント工事の監理等に関わってきました。

是非一度、この巨大な吹抜空間を体験いただき、ご批評  
でも承われば、有難く思います。



アトリウム



1 F 通路



B 1 F 通路



3 F 通路

## 秋の文化・スポーツ催事

### ■堺市の三大催事

- 市民オリンピック 10月10日 金岡公園
  - 堺まつり（前夜祭） 10月18日 市民会館
  - （パレード他） 10月19日 大小路他
- 前夜祭ではファッションデザインコンクール「ファステム21 第1回堺ファッショングランプリ」が行われる。パレードには歌手堀ちえみさんが出場しテレビ大阪で実況中継される。
- 農業祭 11月23日 大仙公園

### ■博物館の展示

- 特別陳列「弥生時代の食生活」 ～9月28日
- 秋季特別展「源氏物語の絵画」 10月4日～11月9日
- 堺市展（日本画・洋画・彫刻・工芸・写真・書道・てん刻） 10月25日～11月16日
- 特別陳列「永観文庫の書籍」 11月15日～12月21日

### ■大阪21世紀計画・秋のイベント

- IASS国際シンポジウム  
9月15日～20日 大阪ロイヤルホテル
- ニューテックス'86大阪  
9月17日～20日 インテックス大阪
- 第14回日本ギフトショー大阪'86  
9月18日～19日 国際見本市会館
- 第3回日本国際食品産業見本市  
10月3日～7日 インテックス大阪
- 大阪ビジネスフェア'86  
10月7日～9日 インテックス大阪
- 第1回国際新素材会議・見本市  
10月16日～19日 ホテルニューオータニ  
大阪城ホール
- 体操フェスティバル'86OSAKA  
10月18日～19日 守口市民体育館
- 第7回国際シンポジウム「日本の道路を問う」  
10月20日～21日 大阪商工会議所
- 第13回日本国際工作機械見本市  
10月25日～11月3日 インテックス大阪
- '86大阪ウォーキングジャンボリー  
10月26日 大阪城公園から市内一円

- 国際映像フェア'86  
10月25日～29日 大阪城ホール

### ■大阪国際ファッションフェスティバル

- トータルファッション展（ESTA展）  
11月11日～13日 大阪マーチャンダイズマート
- 国際ファッションシンポジウム  
11月17日 大阪商工会議所
- 国際ファッションショー  
11月18～19日 大阪城ホール  
（パリ招待デザイナーコレクションはエルメス、ジャン・バトゥ、ドロテビス）

## 表紙の写真

堺市材木町本山妙国寺霊木大蘇鉄

天正7年、織田信長によって安土城に移されたこの蘇鉄、夜な夜な信長の枕元に現れては「堺に帰ろう」「妙国寺に帰ろう」と泣き続けたという話はイササカ怪談めいているが…。いのちをかけて信長に抵抗した蘇鉄は、満身創痍のありきまで妙国寺へ帰された。当地開山の日蓮上人によって鉄屑を与えられ、蘇鉄は見事に生きかえった。元祖「蘇鉄」命名のいわれである。

樹令1100年と称され、あまたの神秘的な伝説を残して、妙国寺の大蘇鉄は今日も鉄を食べて健在である。（大正13年12月国天然記念物指定）（広報委員 山崎 晶）

## SADA入会について

- SADAの会員は、8月末現在で個人会員46名、賛助会員15社になりました。
- SADAに入会ご希望の方は、事務局またはお知り合いの会員にご相談下さい。

会報 SADA 5号  
昭和61年9月30日

発行 堺デザイン協会

〒590 堺市北向陽町1-1-7 オカムラデザインプロ内TEL0722-29-5011

編集 堺デザイン協会広報委員会